

若者パワーで変えていく！ 日本の農業と環境のこれから

A SEED JAPAN 「いのち×ローカルな農業プロジェクト」

国際青年環境 NGO
A SEED JAPAN

〒160-0022
東京都新宿区新宿 5-4-23
http://www.aseed.org/



身近な食と農業について若者たちが議論

18歳～34歳までの若者たちが中心となって環境活動を展開している国際青年環境 NGO 「A SEED JAPAN」では、10年ほど前から『食の安全と農業の未来を考えるチーム』を発足して、有機農業を体験するなど、さまざまな活動を行ってきました。

今年の春からはこの活動をさらに発展させ、生物の多様性を守り、地域を元気にする農業を応援していこうと『いのち×ローカルな農業プロジェクト』を立ち上げました。そのキックオフイベント「いのち×ローカルな農業



平成17年にコウノトリを野生に戻した豊岡市。コウノトリが田んぼにいる風景が戻ってきた

プロジェクトオリエンテーション」(東京都渋谷区・JICA 地球ひろば)では、約40人の若者たちが集まり、環境を保全する日本の農業のこれからについて、熱気を帯びたグループディスカッションを行いました。

イベントでは、「いのち×ローカルな農業」を実践しているゲスト

も参加し、その取り組みを紹介しました。ゲストの一人、若森洋崇さんは東京の大学を卒業後、「豊かな生活は地方にある」と帰郷。現在は兵庫県豊岡市コウノトリ共生部主任として、コウノトリも住める環境づくりのため、可能な限り農薬や化学肥料を使わずにお米を育てる農法を推進しています。

「日本の空から消えたコウノトリを再び空に帰すための生きものを育む農法。この取り組みを継続していくためには、消費者がその付加価値を理解し、買ってくれることが大事です」(若森さん)

ゲストの話を受けて、ディスカッションはさらに白熱。参加者からは、「消費者は値段だけ見れば安いものを選ぶ。値段以外の付加価値を見えるようにすることが大事」「環境にいい農業でも、採算が合わなければ続けられない。それを後押しする行政のかかわりも重要」「消費者が食や農の問題を知ることで変わっていく。意識をもつ

た私たちがもっと声を大にして伝えていくことが必要」など、さまざまな意見が発表されました。

農家での住み込み研修の経験もある小泉晶子さんは、プロジェクトの中心に立ち、参加者にこう呼びかけます。「私たちは、日本の農業を若者パワーで変えてやるんだという強い意気込み



「いのち×ローカルな農業」のコンセプトを分かりやすく解説したパンフレット

をもっています。農家でも政治家でもなく、都会で生活する私たち若者ができることは何か。今日ここで話し合ったことを、一緒に行動できるメンバーになってもらいたい」

いのち×ローカルな農業プロジェクトは、まだ始まったばかり。しかし、彼らから湧き上がってくるアイデアが熱意によって実行される日はそう遠くないはずです。

平成21年度 地球環境基金助成金交付 採択状況(件数および金額)

一般助成	129件 4億6,110万円
発展助成	39件 8,960万円
合計	168件 5億5,070万円

※詳細につきましては別冊の「交付団体一覧」をご覧ください。

ご関心をお持ちになった方は、ぜひ地球環境基金が主催するイベントにもお越しになってみてください。

【内容】開催11回を迎える国内最大級のイベントに2回目の出展をいたします。昨年は約800企業・団体が参加し、18万人近くの方にご来場いただきました。

エコプロダクツ2009

【日程】12月10日(木)～12月12日(土)

【会場】東京ビッグサイト(東京・有明)

【内容】全国のスキー場が出展し、多くのスキーファンでにぎわうイベントです。昨年は約50団体が参加し、5万人近くの方にご来場いただきました。

出展イベント情報

ウィンターリゾート2010

【日程】11月27日(金)～11月29日(日)

【会場】サンシャインシティ文化会館(東京・池袋)

地球環境基金は、国民の皆様からのご寄付と国からの資金拠出をもとに、民間団体(NPO・NGO)の環境保全活動への資金助成などを行っています。

詳細につきましては、ホームページ「地球環境基金の情報館」(http://www.erca.go.jp/fjge)をご覧ください。